



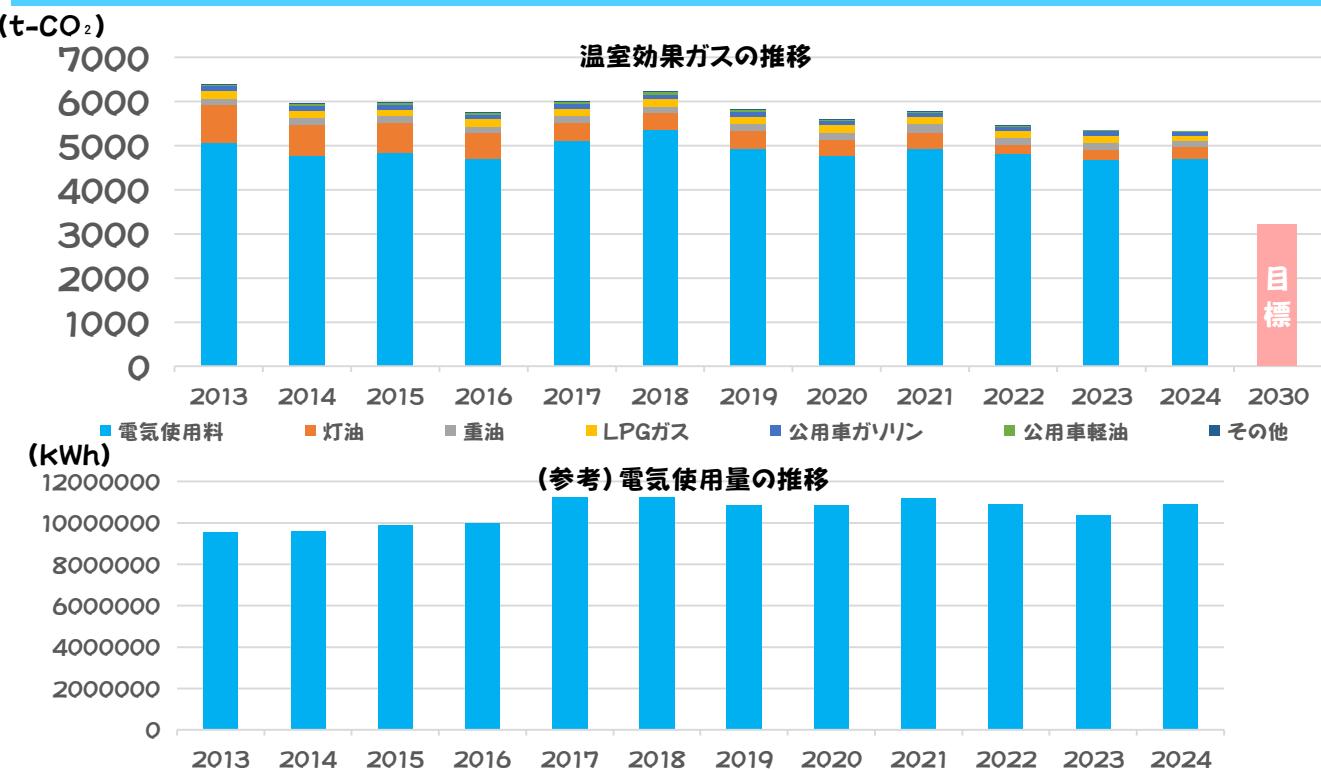
市役所から排出される温室効果ガスの排出量について(R6実績)

1 市役所から排出される温室効果ガスの排出量

温室効果ガス排出量	基準年度 2013年度	現在 2024年度	目標 2030年度
	6401.22 t-CO ₂	5,348.00 t-CO ₂	3200.61 t-CO ₂
削減率	0%	16.45%	50%

- ・地方公共団体実行計画(事務事業編)策定・実施マニュアルに基づき算出
- ・エネルギー(電気・ガス・ガリソン等)の使用量から算出(毎年度各課より頂いたデータを集計)

2 市役所から排出される温室効果ガスの推移



3 分析と対策

◆排出量減少の要因

・市営もとゆ温泉にエリアンサスを原料とするバイオマスペレットボイラーを導入(2017年)したことにより、毎年350 t-CO₂が削減されている。

・電気使用量は基準年より増加傾向。本市の多くが契約している東京電力の排出係数が減少したことによるもの。

◆今後の傾向

・R7年度より全校に配食が可能な給食センターが稼働したことによりエネルギー使用量の増加が見込まれる。

・市内小中学校体育館に空調を導入したことから、エネルギー使用量の増加が見込まれる。

・あおぞら保育園の民営化により削減が見込まれる。

◆今後の対策

・公共施設へ再生可能エネルギーを導入(直営公共工事よりもリースを推奨、余剰せずに全量使用を前提に設置)

・公共施設のLED化

・施設新設、改修時のZEB化(断熱改修だけでも効果あり、空調の使用量を抑えたい)

・省エネ診断の実施(特に空調の効率化、インシヤル・ランニングコストを専門家がシミュレーション。高効率設備の導入費用とランニングコストを比較し、回収が見込めるなら導入を検討。)

・再エネ電力の購入(東京電力以外の小売事業者で電気代も安く、排出係数の低い電力会社と契約することで電気代削減と温室効果ガス削減の両立が可能となる)